

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：16201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24790620

研究課題名(和文) 海外在留邦人のメンタルヘルスに関する研究

研究課題名(英文) Mental health research for Japanese temporary immigrants

研究代表者

依田 健志 (Yoda, Takeshi)

香川大学・医学部・講師

研究者番号：40457528

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：環境や文化の異なる複数の国や地域で生活する日本人を対象に、自記式アンケートにより抑うつや不眠等のメンタルヘルスの状況を明らかにすることを目的とした研究を施行した。調査期間内に37か国、241名のデータを収集することができた。データ全体の平均年齢は37.9歳、男性は85人(36%)であった。問題不眠と考えられる不眠スコア3点以上該当者は16人(6.6%)、抑うつスクリーニングで用いられるK6スコア5点以上が68人(29.6%)であった。問題不眠、抑うつ傾向共に日本人一般住民の平均数値よりも高く、海外におけるストレス環境がメンタルヘルスに多大な影響を与えていることが判明した。

研究成果の概要(英文)：We used self-administered questionnaires for an internet survey to investigate mental health condition for Japanese residents in all over the world. Total 241 residents from 37 countries were answered, of which male residents were 85 (36%) and mean age was 37.9 years old. We used Insomnia score (IS) from the Structured interview guide for the Hamilton depression rating scale (SIGH-D) and K6 score for the evaluation of the depression. We defined IS higher than 3 as serious insomnia and K6 higher than 5 as possible depression from former studies. Number of people with IS higher than 3 and K6 higher than 5 was 16 (6.6%) and 68 (29.6%) respectively. Compare with Japanese general population survey, our research data were shown much higher both serious insomnia and possible depression. Our research results suggest that relatively high number of people may suffer from mental illness compare with the Japanese living in Japan.

研究分野：公衆衛生学

キーワード：メンタルヘルス 海外在住 抑うつ 不眠 ロングステイ 日本人

1. 研究開始当初の背景

日本における年間自殺者数は1998年以降毎年3万人を超え、自殺対策が喫緊の課題である。自殺の危険因子として、世界保健機構(WHO)によると、うつなどの精神疾患、周囲のサポート不足などの社会的孤立、ストレス耐性の低さなどを挙げている。研究代表者らは、香川県自殺予防対策の一環として、大学生やハローワーク来所者へメンタルヘルスアンケート調査を行った。その結果、うつの評価尺度であるK6スコアが悪い者ほど、大学生活や職場での悩みを抱えており、相談相手がいらないということがわかった。いわゆる、悩みを抱えているが相談する相手がいらないという状況は、言語・文化・生活習慣や生活環境が異なる海外に長期間に渡って在留する場合にも良く当てはまるのではないかと考えたが、先行研究はほとんど行われおらず、行われていても限定的な地域のみのものであった。海外在留邦人は100万人を超えているが、その精神衛生面での実態は明らかになっていない。

2. 研究の目的

本研究は海外在留邦人のメンタルヘルスを、環境や文化の異なる複数の国や地域で自記式アンケートを行うことにより明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) アンケート用紙の作成

アンケート用紙は既存のうつ病評価尺度、香川県自殺予防対策時に使用した調査用紙等を参照しながら、メンタルヘルスに関して適切かつ客観的に評価できるものを作成した。抑うつの評価には、KesslerらによるK6質問票を用いた。K6質問票は、特に香川県におけるメンタルヘルスアンケート調査にも用いられている為、比較活用ができること、またアメリカではNational Comorbidity SurveyやNational Health Interview Survey等に用いられており、質問項目数が少ないため被調査者の負担が少なく済むなどの特徴からK6質問票を採用した。更に、抑うつと不眠に関する近年の研究成果から、不眠を質問票で捕捉するため、ハミルトン抑うつ構造化面接17項目(SIGH-D)のうちの睡眠項目に関する部分を追加し、不眠スコア(Insomnia score; IS)として抑うつの1因子として独立評価に用いた。

また、本調査において特徴的な項目(例えば現地語の会話能力、現地日本人会への参加有無など)を数項目選定し、メンタルヘルスとの関連性を調べた。

(2) 調査地・調査対象の選定

調査地は、海外在留邦人のいる場所のうち、1)日本人が比較的多い場所、2)日本人が比較的少ない場所、の2か所に大別し、それぞれについて調査を行った。ここでいう「海外在留邦人」とは、日本国外に3か月以上滞在し

ている日本国籍を有する者で、当該在留国へ永住する者以外とした。この基準は外務省「海外在留邦人数調査統計」の「長期滞在者」の定義に基づく。1)は、具体的には長期滞在者数が最多の上海、同2位のニューヨーク、同4位のバンコクの3地域を調査対象地としたが、インターネットを通じた調査に関しては、中国ではアクセス制限の問題があり、結果としては中国からデータを入手することができなかった。2)に関しては、海外在留邦人数調査統計から在留邦人の少ない国を数十か国選定し、各国の青年海外協力隊員を通じてインターネットアンケートに回答してもらうよう呼びかけた。

調査対象は、前述の定義を満たす留学生、民間企業関係者自由業・専門的職業関係者及びその家族とする。調査対象者への連絡は、現地日本人会を通して、また研究協力してもらう現地大学や研究機関を通して行う。海外派遣を行っている民間企業へも連絡し、研究協力依頼を行った。

(3) 調査の施行

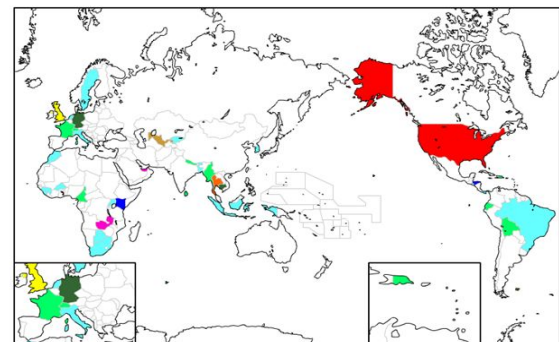
本調査に先だって、パイロットスタディーを行い、質問項目の再検討を行った後、選定した調査地へ赴き、調査対象者へ調査の趣旨説明及び調査票への記入を行ってもらった。また、同時にインターネット回答サイトを設立し、インターネットから回答してもらうべく宣伝を行った。

(4) 結果の解析

入力されたデータは単純集計した後IS及びK6のそれぞれの一般住民におけるスクリーニングカットオフ値を基準にデータを2区分化し、カットオフ値以上を問題不眠群及び抑うつ傾向群と判断し、特徴をそれぞれ解析した。また、得られた結果からサブ解析を行い、職業別、あるいは滞在地別の解析を施行した。解析にはJMP10.0を用い、数値の比較には両側t検定及びカイ二乗検定を比較対象に応じて施行した。各検定の有意水準は0.05未満とした。

4. 研究成果

37か国241名のデータを収集することができた。(図1)



(図1) 回答者の居住地別人数

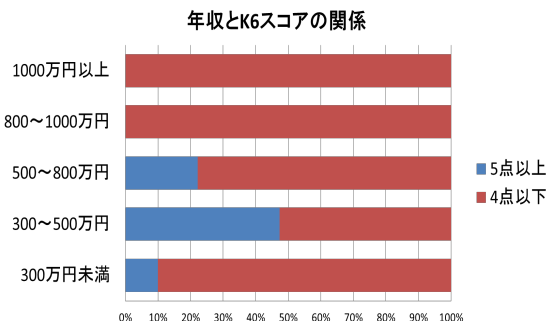
データ全体の平均年齢は 37.9 歳、男性は 85 人 (36%) であった。問題不眠と考えられる不眠スコア 3 点以上該当者は 16 人 (6.6%)、抑うつスクリーニングで用いられる K6 スコア 5 点以上が 68 人 (29.6%) であった。問題不眠及び抑うつの可能性という観点から見た回答者の特徴を表 1 で示した。

表 1. 問題不眠・抑うつ傾向別の特徴

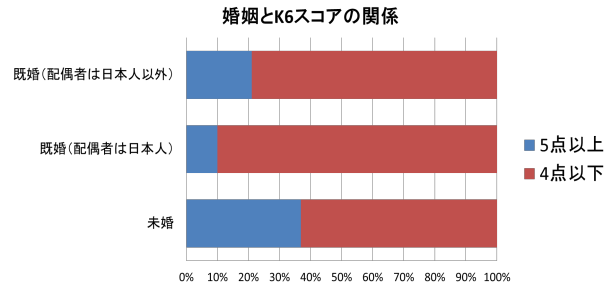
		Insomnia Score			K6 Score		
		Serious insomnia	No insomnia	p†	Possible depression	No depression	p†
Gender	Male	6	79	0.87	20	59	0.26
	Female	10	143		48	100	
Age (Mean)		37.7	40.0	0.32	36.1	38.3	0.06
Educational attainment	≤High school	4	45	0.26	14	31	0.91
	University	6	126		39	90	
	Graduate school+	6	49		14	37	
Marital Status	Married	6	129	0.17	41	57	<0.01*
	Not Married	9	94		27	103	
Chronic diseases	None	5	50	0.32	47	128	0.07
	≥1	10	174		21	32	
Smoking Status	Non-smoker	9	192	<0.01*	15	139	0.08
	Smoker	6	30		52	21	
Drinking Status	Never	5	75	0.98	45	103	0.79
	Sometimes/Everyday	10	148		23	57	
Inmate number	1	6	82	0.83	26	60	0.72
	2	4	44		12	35	
	3	2	39		9	30	
	4	2	33		12	21	
	≥5	0	13		3	10	
Country status	Developed	4	123	0.02*	37	82	0.63
	Developing	12	101		31	79	
living place language skill* (total score; Mean)		7.87	7.75	0.91	8.48	7.53	0.13

表 1 から、問題不眠を抱える海外在留邦人は喫煙者、途上国在住者に有意に多いことがわかった。また、抑うつ傾向の海外在留邦人は独身者に有意に多いことがわかった。

国別にみると、最も回答数が多かった国がアメリカで 108 名、次いでタイ 48 名となった。また、データのうち有職者が 191 名、そのうち現地採用労働者は 50 名であった。現地採用労働者に着目したサブ解析の結果を以下図 2 及び図 3 に示す。



(図 2) 現地採用労働者の年収と抑うつ傾向の関係 (K6 スコア 5 点以上を抑うつ傾向とみなす)



(図 3) 現地採用労働者の年婚姻状況と抑うつ傾向の関係 (K6 スコア 5 点以上を抑うつ傾向とみなす)

現地採用労働者については、問題不眠は見られなかったものの、抑うつ傾向は年収及び婚姻状況に関係性を見出すことができた。すなわち抑うつ傾向としては、年収が 300 ~ 500 万円であること、婚姻状況は未婚 (独身) であることが他と比較し有意に高かった。

その他、国別や有職者のみ等のサブ解析も行い、解析結果については国際学会・国内学会等で公表している。また、結果をまとめたものを、現在専門誌へ執筆投稿中である。

< 参考文献 >

警察庁生活安全局生活安全企画課. 平成 22 年中における自殺の概要資料. 2011 年 3 月 3 日
<http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/H22jisatsunogaiyou.pdf>

高橋祥友. WHO による自殺予防の手引き: 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金 (こころの健康科学研究事業) 自殺と防止対策の実態に関する研究報告書. 2002 年

依田健志, 吉岡哲, 鈴江毅 他. ハローワーク来所者における抑うつ状態と社会的・心理的因子の関連性について: 第 70 回日本公衆衛生学会総会 (秋田) 2011 年 10 月 19 日-21 日

吉岡哲, 鈴江毅, 依田健志 他. 大学生における抑うつ状態と社会的・心理的因子の関連性について: 第 70 回日本公衆衛生学会総会 (秋田) 2011 年 10 月 19 日-21 日

鈴木満, 仲本光一, 吾妻壮 他. 海外在留邦人 100 万人時代のメンタルヘルス対策 米国北東部地域における邦人メンタルヘルス専門家の連携: こころと文化. 8 巻 1 号 69-76, 2009 年

井村倫子. 在バンコク邦人の精神保健と文化変容 駐在員配偶者を中心とした一考察: こころと文化. 6 巻 2 号, 149-156, 2007 年

Kessler RC, Andrews G, et al. Short Screening scales to monitor population prevalences and trends in nonspecific psychological distress. Psychol Med. 32;959-976, 2002.

Koyama F: Changes in Regional Cerebral Blood Flow Correlates with Severity of Depression and the Feeling of Fatigue, a 99mTc-ECD SPECT Study in 45 Workers(article in Japanese). Job Stress research 17(2) : 133-137, 2010.

Koyama F, Matsuura N, Kageyama J, Otsuki K: Changes in Regional Cerebral Blood Flow Correlate with Symptoms of Depression, Severity of Fatigue, and Sleep Disorders in 99mTc-ECD SPECT study in 45 workers (article in Japanese). Japanese Journal of Occupational Medicine and Traumatology 58(2): 76-82, 2010

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

Yoda T, Yokoyama K, Yoriki M, Suzuki H, Hirao T. Mental health research for Japanese who are living in Bangkok, Thailand. 5th Joint symposium between CMU and KU, 査読有, 82-83, 2014

[学会発表](計 7 件)

Yoda T, Yokoyama K, Yoriki M, Yoshioka A, Suzuki H, Hirao T. The mental health research for Japanese who are living in outside Japan. 14th World Congress on Public Health, 11-15 February, 2015, Kolkata (India).

Yoda T, Yokoyama K, Yoriki M, Yoshioka A, Suzuki H, Hirao T. Mental health research for overseas Japanese workers. The 21st Asian Conference on Occupational Health, 2-4 September, 2014, Fukuoka (Japan).

Yoda T, Yokoyama K, Yoriki M, Suzuki H, Hirao T. Mental health research for Japanese who are living in Bangkok, Thailand. The 5th Joint Symposium between Chiang Mai University and Kagawa University, 10-12 September, 2014, Chiang Mai (Thailand).

Yoda T, Yokoyama K, Suzuki H, Yoriki M, Kato T, Hirao T. Psychiatric conditions of Japanese immigrants in Bangkok, Thailand. Joint International Tropical Medicine,

Meeting 2014 and 8th seminar on Food- and Water-borne parasitic zoonoses, 2-4 December, 2014, Bangkok (Thailand).

依田健志, 横山勝教, 吉岡哲, 坂野紀子, 宮武伸行, 鈴江毅, 平尾智広. 海外在留邦人の現地採用労働者におけるメンタルヘルス調査. 第 87 回日本産業衛生学会, 2014 年 5 月 21-24 日、岡山コンベンションセンター (岡山県岡山市)

依田健志, 横山勝教, 頼木麻里絵, 鈴木裕美, 平尾智広. タイ在住日本人のメンタルヘルス調査. 第 55 回日本熱帯医学会大会・第 29 回日本国際保健医療学会学術大会合同大会, 2014 年 11 月 1-3 日、国立国際医療研究センター (東京都新宿区)

依田健志, 加藤琢真, 野村真利香, 宮下麻子, 吉岡哲, 平尾智広. 海外在留邦人のメンタルヘルスに関するアンケート (中間報告) 第 28 回日本国際保健医療学会学術大会 2013 年 11 月 2 日~4 日 名桜大学 (沖縄県名護市)

[産業財産権]

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ等

<http://www.kms.ac.jp/~koueisei/index.php?id=41>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

依田 健志 (Takeshi Yoda)

香川大学・医学部公衆衛生学・講師

研究者番号 : 40457528

(2) 研究分担者

()

研究者番号 :

(3) 連携研究者

()

研究者番号 :